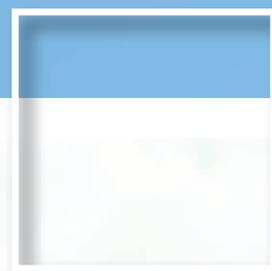


放送大学を利用して
大学改革支援・学位授与機構で
学士の学位取得をめざす方へ

2022年度



「学士」の取得をめざす方へ

学位授与制度をご存知ですか？

学位授与制度は、短期大学・高等専門学校を卒業された方や専修学校専門課程を修了された方などが、放送大学などで一定の学修を積み上げた場合、大学改革支援・学位授与機構の行う審査に合格することによって「学士」の学位取得への途を開いたものです。

この制度を利用して取得できる「学士」の種類は、看護学をはじめ非常に多岐にわたっており、多くの方に様々な可能性が開かれています。

「学士」の申請をするには、「基礎資格を有する者」の条件や、「積み上げ単位（基礎資格を有する者に該当した後に新たに修得すべき単位）」の修得、「学修成果」の作成等、理解しておかなければならないことがいくつかあります。どのような科目を、どれだけ修得する必要があるのかなどは、申請者が自身で判断することになります。

そこで、放送大学では、大学改革支援・学位授与機構の学位授与制度を利用して学士の取得を目指す方を応援するために、同機構の協力を得て、この冊子を作成しました。

放送大学を卒業することによって学士（教養）を取得することができますが、大学改革支援・学位授与機構の学位授与制度で「学士」の取得を目指すにあたっては、放送大学で開講している多くの科目を利用することができます。

これから初めて「学士」を取得しようとする方から、もう既に取得している「学士」とは別の「学士」を目指そうとする方まで、「学士」に興味をお持ちの皆さんにお役立ていただければ幸いです。

※ 放送大学と大学改革支援・学位授与機構は、「生涯学習社会における高等教育の推進」という共通の目的の下、大学教育活動と学位授与事業で相互に協力していくため、協定を締結しております。

目 次

学士の学位を取得するには……………	2
放送大学の学修について……………	3
対応科目一覧……………	4
Q&A ……………	16

学士の学位を 取得するには

放送大学で学修を始める前に、大学改革支援・学位授与機構（以下、この冊子では「機構」と書きます。）が行っている学位授与制度をしっかりと把握することが大切です。

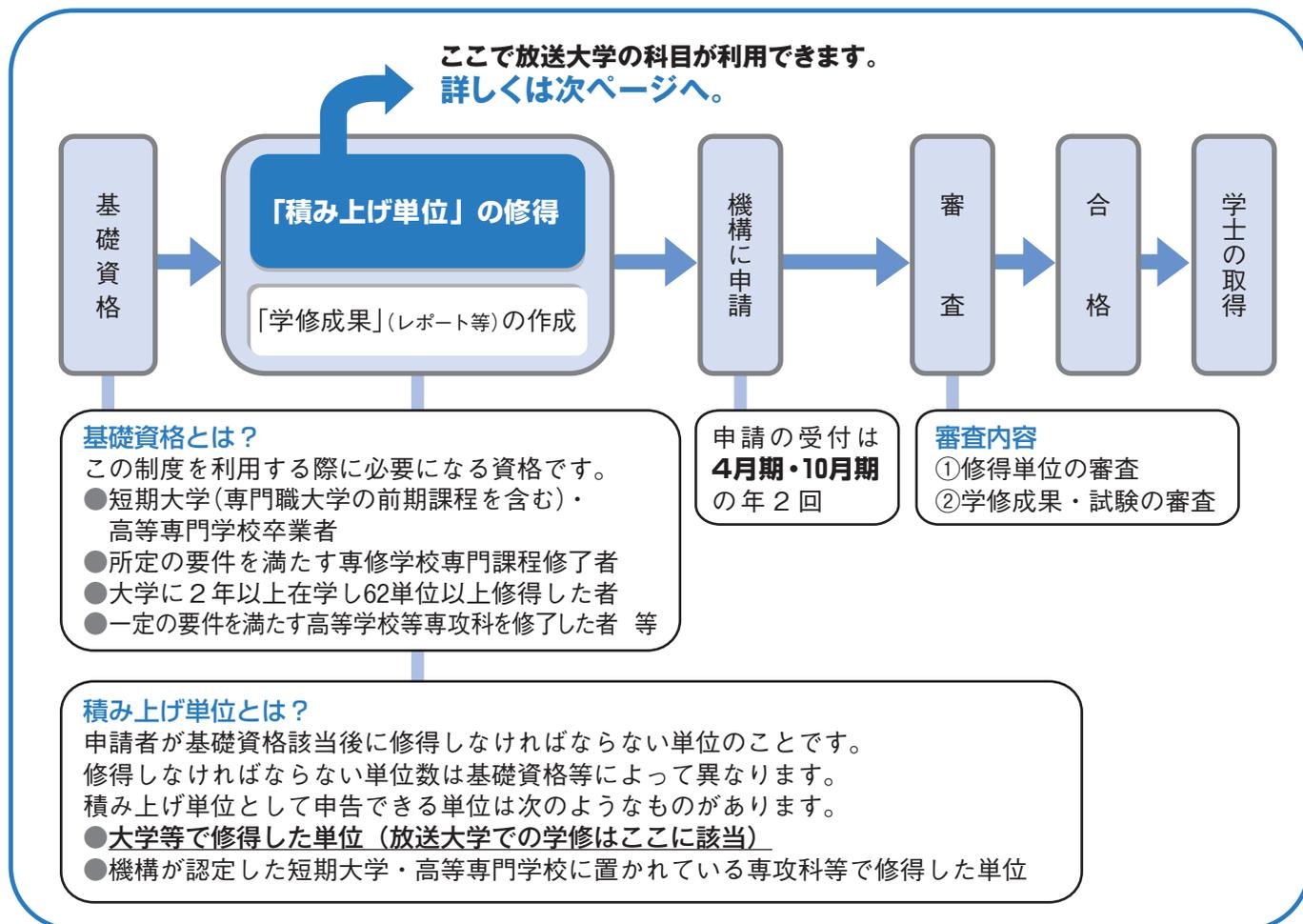
ここでは概要を簡単にまとめてみました。

詳しくは機構が発行している「新しい学士への途」*をご覧ください。

大学改革支援・学位授与機構について

大学卒業と同等以上の学力があると認められたものに学位（学士）を授与することを業務の一つとしている機関です。

学士の学位取得までの流れ



学位授与制度に関するお問い合わせ先

独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構 管理部学位審査課

〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1

☎042-307-1550 [問い合わせ専用]

9:00~12:00 13:00~17:00 (土・日曜、祝日、年末年始を除く。)

※学位取得のための履修指導は行っていません。

ウェブサイト <https://www.niad.ac.jp/>

*「新しい学士への途」の請求については、Q & AのQ16をご覧ください。

なお、「新しい学士への途」は機構ウェブサイト(URL https://www.niad.ac.jp/n_gakui/application/shinseishiryoku.html)から閲覧できます。

放送大学の 学修について

放送大学で修得した単位は機構に申請する際に「**積み上げ単位**」として利用できます。

BS放送・インターネットを利用した授業を自分のペースで学ぶことができます。科目数は約300。あなたに必要な科目もきっとあるはずです。

出願から単位修得までの流れ

放送大学に入学する前に確認

自分の申請区分、積み上げ単位数を把握していますか？
どの分野の科目を何単位修得すべきか分かりますか？

分からなかったらこれで確認！
「新しい学士への途」
(機構発行)

放送大学で履修する科目を選択

約300ある科目の中から履修する科目を決定します。
1学期間に履修する科目数は、自分の学習ペースを考え、無理のない程度にしましょう。

科目の内容はこれで確認！
「授業科目案内」
講義内容 (シラバス)*

? どの科目を履修すればいいですか？

申請に利用する科目は自分で選択することになります。機構が設けている61の専攻の区分のうち、16の専攻の区分については「対応科目一覧」を作成していますので、参考にしてください。(Q&Aもご確認ください)

「対応科目一覧」(p.4～)

(注)機構では、学位取得のための履修相談には応じていませんので、ご了承ください。→Q&AのQ4、Q11もご覧ください。

学生種と履修科目を選択

●修得すべき単位数や生活スタイルに合わせて学生の種類を選べます。

学 生 種		入 学 料	授 業 料
科目履修生	半年間 (1学期間) 在学	7,000円	半年間 放送授業 1科目 (2単位) 11,000円 (教材費込み) オンライン授業科目 (1単位または2単位) 5,500円または11,000円
選科履修生	1年間 (2学期間) 在学	9,000円	
全科履修生*	最長10年間在学可能	24,000円	

* 全科履修生在学中は機構への申請はできません。(本学卒業後、または退学後に申請することが可能です。)

(注) 編入学する場合は、入学料に加え、既修得単位認定審査等手数料(10,000円)が必要です。

11月下旬～3月中旬
6月中旬～9月中旬

出 願

4月
10月

入 学

放送授業・印刷教材による学習

放送授業は週1回・45分、全15回。
学期途中に1度、通信指導があります。

7月下旬
1月下旬

通信指導合格後

単位認定試験

15回の放送授業が終了した後に実施されます。

試験に合格

単 位 修 得

BS放送

テレビ 232 ch. ラジオ 531 ch. で視聴できます。

インターネット

開講期間中は原則すべての放送授業をインターネット配信します。
科目名や視聴に必要な環境は、放送大学ウェブサイトでご確認願います。

学習センター

全国の学習センター(サテライトスペース)では、放送授業を視聴できます。

オンライン授業

インターネット上で提供される講義・設問解答による授業を行います。

インターネットラジオ radiko.jp

放送しているラジオ授業科目をそのまま同時にパソコン、スマートフォン等で聴取可能な、IPサイマルラジオサービス(radiko.jp)を実施しています。

*講義内容(シラバス)は放送大学のウェブサイト (<https://www.ouj.ac.jp>) からご覧になれます。

対応科目一覽

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。
 なお、各区分の必要単位数は、「新しい学士への途」(機構発行)をご確認ください。

1 「文学」(心理学)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目	
専門科目 (A群)	○心理学に関する基礎的・概論的な科目	発達科学の先人たち(16)、心理学概論(18)、心理と教育へのいざない(18)、教育・学校心理学(20)、心理学研究法(20)、データの分析と知識発見(20)、ユーザ調査法(20)、心理学統計法(21)	
	○知覚・学習心理学に関する科目	知覚・認知心理学(19)、錯覚の科学(20)、学習・言語心理学(21)、神経・生理心理学(22)	
	○教育・発達心理学に関する科目	発達心理学概論(17)	
	○人格・臨床心理学に関する科目	心理臨床と身体の病(16)、精神分析とユング心理学(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、今日のメンタルヘルス(19)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、臨床心理学概論(20)、司法・犯罪心理学(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理臨床における法・倫理・制度(21)	
	○社会・集団心理学に関する科目	危機の心理学(17)、交通心理学(17)、社会・集団・家族心理学(20)、産業・組織心理学(20)	
(B群)	○心理学に関する実験・実習科目		
関連科目	◇情報科学に関する科目	記号論理学(14)、Javaプログラミングの基礎(16)、メディアと知的財産(16)、コンピュータの動作と管理(17)、データベース(17)、身近な統計(18)、社会統計学入門(18)、データ構造とプログラミング(18)、情報ネットワーク(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、統計学(19)、計算の科学と手引き(19)、情報理論とデジタル表現(19)、Webのしくみと応用(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、身近なネットワークサービス(20)、生活環境と情報認知(20)、映像コンテンツの制作技術(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、コンピュータ通信概論(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、遠隔学習のためのパソコン活用(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)	
	◇比較文化に関する科目	フィールドワークと民族誌(17)、総合人類学としてのヒト学(18)、日本文学における古典と近代(18)、『方丈記』と『徒然草』(18)、情報化社会と国際ボランティア(19)、「人新世」時代の文化人類学(20)、博物館で学ぶ文化人類学の基礎(20)、世界の中の日本外交(21)、日本文学と和歌(21)、世界文学への招待(22)、人文地理学からみる世界(22)	
	◇社会学に関する科目	女性のキャリアデザインの展開(17)、人口減少社会の構想(17)、ソーシャルシティ(17)、都市と地域の社会学(18)、社会調査の基礎(19)、人間にとって貧困とは何か(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、エネルギーと社会(19)、リスク社会の家族変動(20)、家族問題と家族支援(20)、新時代の組織経営と働き方(20)、生活環境情報の表現-GIS入門(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、社会学概論(21)、環境と社会(21)	
	◇生態学に関する科目	動物の科学(15)、生物環境の科学(16)	
	◇医学に関する科目	がんを知る(16)、感染症と生体防御(18)、公衆衛生(19)、健康長寿のためのスポーツロジック(19)、リハビリテーション(19)、疾病の成立と回復促進(21)、睡眠と健康(21)、疾病の回復を促進する薬(21)、人体の構造と機能(22)、運動と健康(22)	
	◇哲学に関する科目	現代フランス哲学に学ぶ(17)、死生学のフィールド(18)、現代の危機と哲学(18)、日本仏教を捉え直す(18)、哲学・思想を今考える(18)、原初から／への思索(22)、西洋哲学の根源(22)	
	◇教育学に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法(15)、幼児理解の理論及び方法(15)、カリキュラムと学習過程(16)、学校と社会を考える(17)、現代社会の児童生徒指導(17)、子ども・青年の文化と教育(17)、生涯学習を考える(17)、戦後日本教育史(18)、現代の家庭教育(18)、地域コミュニティと教育(18)、教育社会学概論(19)、教育の行政・政治・経営(19)、博物館概論(19)、学校と法(20)、情報化社会におけるメディア教育(20)、大学マネジメント論(20)、現代教育入門(21)、乳幼児の保育・教育(21)、道徳教育論(21)、日本の教職論(22)、幼児教育の指導法(22)	
	◇言語学に関する科目	コミュニケーション学入門(19)、日本語学入門(20)	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

2 「教育学」

「専門・関連科目」の区分	2022年度対応科目
専門科目 ○教育学・教育心理学に関する科目 ○教科教育に関する科目 ○幼児教育・保育に関する科目 ○特別支援教育に関する科目 ○養護教育に関する科目	カリキュラムと学習過程(16)、発達科学の先人たち(16)、発達心理学概論(17)、現代社会の児童生徒指導(17)、子ども・青年の文化と教育(17)、生涯学習を考える(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、学校と社会を考える(17)、教育のためのICT活用(17)、戦後日本教育史(18)、現代の家庭教育(18)、地域コミュニティと教育(18)、心理と教育へのいざない(18)、教育社会学概論(19)、教育の行政・政治・経営(19)、学校と法(20)、教育・学校心理学(20)、大学マネジメント論(20)、現代教育入門(21)、道徳教育論(21)、日本の教職論(22)
◇思想・哲学に関する科目	現代フランス哲学に学ぶ(17)、危機の心理学(17)、死生学のフィールド(18)、現代の危機と哲学(18)、日本仏教を捉え直す(18)、哲学・思想を今考える(18)、西洋哲学の根源(22)、原初から／への思索(22)
◇歴史・文化に関する科目	日本の古代中世(17)、日本文学の名作を読む(17)、博物館概論(19)、国際理解のために(19)、日本政治外交史(19)、「人新世」時代の文化人類学(20)、日本の近世(20)、中国と東部ユーラシアの歴史(20)、博物館で学ぶ文化人類学の基礎(20)、韓国朝鮮の歴史と文化(21)、日本近現代史(21)、都市から見るヨーロッパ史(21)、日本政治思想史(21)、日本文学と和歌(21)、歴史のなかの人間(22)
◇心理学に関する科目	心理臨床と身体の病(16)、交通心理学(17)、精神分析とユング心理学(17)、心理学概論(18)、思春期・青年期の心理臨床(19)、知覚・認知心理学(19)、錯覚の科学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、社会・集団・家族心理学(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)
◇社会に関する科目	環境の可視化(15)、アジア産業論(17)、人口減少社会の構想(17)、女性のキャリアデザインの展開(17)、ソーシャルシティ(17)、環境問題のとりえ方と解決方法(17)、都市と地域の社会学(18)、住まいの環境デザイン(18)、エネルギーと社会(19)、人間にとって貧困とは何か(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、社会調査の基礎(19)、リスク社会の家族変動(20)、家族問題と家族支援(20)、新時代の組織経営と働き方(20)、生活環境情報の表現-GIS入門(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、産業・組織心理学(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、社会学概論(21)、環境と社会(21)、世界の中の日本外交(21)、人文地理学からみる世界(22)、現代の国際政治(22)
◇法律・行政・経営に関する科目	技術経営の考え方(17)、家族と高齢社会の法(17)、経営学概論(18)、情報・メディアと法(18)、現代日本の政治(19)、経営情報学入門(19)、グローバル化時代の日本国憲法(19)、国際経営(19)、国際法(19)、グローバル化と日本のものづくり(19)、現代東アジアの政治と社会(20)、行政学概説(20)、ヨーロッパ政治史(20)、現代の会計(20)、司法・犯罪心理学(20)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、マーケティング(21)、心理臨床における法・倫理・制度(21)、簿記入門(22)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の内部監査(22)、民法(22)、管理会計(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)
◇情報科学に関する科目	記号論理学(14)、Javaプログラミングの基礎(16)、メディアと知的財産(16)、コンピュータの動作と管理(17)、データベース(17)、身近な統計(18)、社会統計学入門(18)、データ構造とプログラミング(18)、情報ネットワーク(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、統計学(19)、計算の科学と手引き(19)、情報理論とデジタル表現(19)、Webのしくみと応用(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、データの分析と知識発見(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、情報化社会におけるメディア教育(20)、生活環境と情報認知(20)、映像コンテンツの制作技術(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、コンピュータ通信概論(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、遠隔学習のためのパソコン活用(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)
◇医療に関する科目	基礎看護学(16)、在宅看護論(17)、感染症と生体防御(18)、看護管理と医療安全(18)、公衆衛生(19)、今日のメンタルヘルス(19)、リハビリテーション(19)、老年看護学(19)、健康への力の探究(19)、疾病の成立と回復促進(21)、疾病の回復を促進する薬(21)、看護学概説(22)、人体の構造と機能(22)
◇福祉に関する科目	社会保障の国際動向と日本の課題(19)、高齢期の生活変動と社会的方策(19)、ライフステージと社会保障(20)、社会福祉と法(20)、子育て支援-法と政策を学ぶ(20)、認知症と生きる(21)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、社会福祉実践とは何か(22) 地域福祉の課題と展望(22)
◇芸術に関する科目	西洋芸術の歴史と理論(16)、舞台芸術の魅力(17)、西洋音楽史(21)
◇保健体育に関する科目	健康と社会(17)、食と健康(18)、健康長寿のためのスポーツロジー(19)、睡眠と健康(21)、運動と健康(22)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

3 「経済学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専 門 科 目	○経済理論に関する科目	経済社会を考える(19)、現代経済学(19)
	○経済史に関する科目	グローバル経済史(18)
	○経済政策・応用経済学に関する科目	アジア産業論(17)、都市と山村からみる身近な経済(18)、グローバル化と日本のものづくり(19)、財政と現代の経済社会(19)、エネルギーと社会(19)、金融と社会(20)、生活経済学(20)、開発経済学：アジアの農村から(20)、環境と社会(21)、海からみた産業と日本(22)
	○統計学に関する科目	身近な統計(18)、社会統計学入門(18)、統計学(19)、教育調査の基礎(20)、心理学統計法(21)
関 連 科 目	◇商学に関する科目	4.「商学」の専門科目に該当する科目が該当(3.「経済学」の専門科目を除く)
	◇経営学に関する科目	5.「経営学」の専門科目に該当する科目が該当(3.「経済学」の専門科目を除く)
	◇法学に関する科目	家族と高齢社会の法(17)、情報・メディアと法(18)、法学入門(18)、グローバル化時代の日本国憲法(19)、国際法(19)、学校と法(20)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、民法(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)
	◇政治学に関する科目	現代日本の政治(19)、日本政治外交史(19)、現代東アジアの政治と社会(20)、行政学概説(20)、ヨーロッパ政治史(20)、中東の政治(20)、世界の中の日本外交(21)、日本政治思想史(21)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の国際政治(22)
	◇社会学に関する科目	人口減少社会の構想(17)、危機の心理学(17)、女性のキャリアデザインの展開(17)、学校と社会を考える(17)、ソーシャルシティ(17)、都市と地域の社会学(18)、地域コミュニティと教育(18)、社会調査の基礎(19)、人間にとって貧困とは何か(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、リスク社会の家族変動(20)、社会・集団・家族心理学(20)、家族問題と家族支援(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、社会学概論(21)
	◇心理学に関する科目	心理臨床と身体の病(16)、発達心理学概論(17)、精神分析とユング心理学(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、交通心理学(17)、心理学概論(18)、思春期・青年期の心理臨床(19)、知覚・認知心理学(19)、今日のメンタルヘルス(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、神経・生理心理学(22)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

4 「商学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専 門 科 目	○商学総論に関する科目	
	○金融論に関する科目	金融と社会(20)
	○貿易論に関する科目	
	○交通論に関する科目	
	○マーケティングに関する科目	マーケティング(21)、サプライチェーン・マネジメント(21)
	○会計学に関する科目	現代の会計(20)、現代の内部監査(22)、管理会計(22)、簿記入門(22)
	○商業史に関する科目	
関 連 科 目	◇経済学に関する科目	3.「経済学」の専門科目に該当する科目が該当(4.「商学」の専門科目を除く)
	◇経営学に関する科目	5.「経営学」の専門科目に該当する科目が該当(4.「商学」の専門科目を除く)
	◇法学に関する科目	家族と高齢社会の法(17)、情報・メディアと法(18)、法学入門(18)、グローバル化時代の日本国憲法(19)、国際法(19)、学校と法(20)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、民法(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)
	◇政治学に関する科目	現代日本の政治(19)、日本政治外交史(19)、現代東アジアの政治と社会(20)、行政学概説(20)、ヨーロッパ政治史(20)、中東の政治(20)、世界の中の日本外交(21)、日本政治思想史(21)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の国際政治(22)
	◇社会学に関する科目	人口減少社会の構想(17)、危機の心理学(17)、女性のキャリアデザインの展開(17)、学校と社会を考える(17)、ソーシャルシティ(17)、都市と地域の社会学(18)、地域コミュニティと教育(18)、社会調査の基礎(19)、人間にとって貧困とは何か(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、リスク社会の家族変動(20)、社会・集団・家族心理学(20)、情報化社会におけるメディア教育(20)、家族問題と家族支援(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、社会学概論(21)
	◇心理学に関する科目	心理臨床と身体の病(16)、発達心理学概論(17)、精神分析とユング心理学(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、交通心理学(17)、心理学概論(18)、思春期・青年期の心理臨床(19)、知覚・認知心理学(19)、今日のメンタルヘルス(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)
◇情報論に関する科目	記号論理学(14)、Javaプログラミングの基礎(16)、メディアと知的財産(16)、コンピュータの動作と管理(17)、教育のためのICT活用(17)、データベース(17)、データ構造とプログラミング(18)、情報ネットワーク(18)、情報理論とデジタル表現(19)、Webのしくみと応用(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、データの分析と知識発見(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、生活環境と情報認知(20)、映像コンテンツの制作技術(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、コンピュータ通信概論(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、遠隔学習のためのパソコン活用(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

5 「経営学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目	○経営学・経営学史に関する科目	技術経営の考え方(17)、経営学概論(18)
	○企業論に関する科目	NPO・NGOの世界(21)
	○経営管理論に関する科目	ファイナンス入門(17)、グローバル化と日本のものづくり(19)、経営情報学入門(19)、大学マネジメント論(20)、新時代の組織経営と働き方(20)
	○人事管理論に関する科目	キャリアコンサルティング概説(20)
	○国際経営論に関する科目	国際経営(19)
	○経営情報論に関する科目	
	○経営史に関する科目	
	○会計学に関する科目	現代の会計(20)、簿記入門(22)、現代の内部監査(22)、管理会計(22)
○マーケティングに関する科目	マーケティング(21)、サプライチェーン・マネジメント(21)、フードシステムと日本農業(22)	
関連科目	◇経済学に関する科目	3.「経済学」の専門科目に該当する科目が該当(5.「経営学」の専門科目を除く)
	◇商学に関する科目	4.「商学」の専門科目に該当する科目が該当(5.「経営学」の専門科目を除く)
	◇法学に関する科目	家族と高齢社会の法(17)、情報・メディアと法(18)、法学入門(18)、グローバル化時代の日本国憲法(19)、国際法(19)、学校と法(20)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、民法(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)
	◇政治学に関する科目	現代日本の政治(19)、日本政治外交史(19)、現代東アジアの政治と社会(20)、行政学概説(20)、ヨーロッパ政治史(20)、中東の政治(20)、世界の中の日本外交(21)、日本政治思想史(21)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の国際政治(22)
	◇社会学に関する科目	人口減少社会の構想(17)、危機の心理学(17)、女性のキャリアデザインの展開(17)、学校と社会を考える(17)、ソーシャルシティ(17)、都市と地域の社会学(18)、地域コミュニティと教育(18)、社会調査の基礎(19)、人間にとって貧困とは何か(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、社会・集団・家族心理学(20)、リスク社会の家族変動(20)、情報化社会におけるメディア教育(20)、家族問題と家族支援(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、社会学概論(21)
	◇心理学に関する科目	心理臨床と身体の病(16)、発達心理学概論(17)、精神分析とユング心理学(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、交通心理学(17)、心理学概論(18)、思春期・青年期の心理臨床(19)、知覚・認知心理学(19)、今日のメンタルヘルス(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

6 「看護学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○基礎看護学に関する科目	基礎看護学(16)、看護管理と医療安全(18)、災害看護学・国際看護学(20)、看護学概説(22)
	○母性看護学に関する科目	母性看護学(20)
	○小児看護学に関する科目	
	○成人看護学に関する科目	成人看護学(18)
	○老人看護学に関する科目	老年看護学(19)
	○精神看護学に関する科目	精神看護学(19)
	○地域看護学に関する科目	在宅看護論(17)
関連科目 (B群)	○看護学に関する実習科目	
	◇医学に関する科目	がんを知る(16)、感染症と生体防御(18)、公衆衛生(19)、今日のメンタルヘルス(19)、健康長寿のためのスポーツロジー(19)、リハビリテーション(19)、精神疾患とその治療(20)、循環器の健康科学(20)、疾病の成立と回復促進(21)、疾病の回復を促進する薬(21)、人体の構造と機能(22)、神経・生理心理学(22)、運動と健康(22)
	◇保健学に関する科目	健康と社会(17)、食と健康(18)、健康への力の探究(19)、睡眠と健康(21)、食の安全(21)、認知症と生きる(21)
	◇社会福祉学に関する科目	家族と高齢社会の法(17)、特別支援教育総論(19)、社会保障の国際動向と日本の課題(19)、高齢期の生活変動と社会的方策(19)、ライフステージと社会保障(20)、社会福祉と法(20)、子育て支援-法と政策を学ぶ(20)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、障害者・障害児心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、地域福祉の課題と展望(22)、社会福祉実践とは何か(22)
◇医療情報科学に関する科目		

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

7「保健衛生学」(検査技術科学)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○基礎・臨床医学に関する科目	感染症と生体防御('18)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、看護学概説('22)、神経・生理心理学('22)
	○基礎検査学に関する科目	
	○臨床検査学に関する科目	
	○臨床検査学に関する実習科目	
(B群)	○健康科学に関する科目	がんを知る('16)、食と健康('18)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、今日のメンタルヘルス('19)、健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、睡眠と健康('21)、運動と健康('22)
	○社会医学に関する科目	健康と社会('17)、公衆衛生('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、食の安全('21)
	○統計学・情報科学に関する科目	記号論理学('14)、Javaプログラミングの基礎('16)、コンピュータの動作と管理('17)、教育のためのICT活用('17)、データベース('17)、身近な統計('18)、社会統計学入門('18)、データ構造とプログラミング('18)、情報ネットワーク('18)、コンピュータとソフトウェア('18)、統計学('19)、情報理論とデジタル表現('19)、社会調査の基礎('19)、自然言語処理('19)、Webのしくみと応用('19)、情報技術が拓く人間理解('20)、データの分析と知識発見('20)、ユーザ調査法('20)、情報化社会におけるメディア教育('20)、生活環境と情報認知('20)、身近なネットワークサービス('20)、アルゴリズムとプログラミング('20)、教育調査の基礎('20)、コンピュータ通信概論('20)、AIシステムと人・社会との関係('20)、心理学統計法('21)、問題解決の数理('21)、遠隔学習のためのパソコン活用('21)、情報学へのとびら('22)、情報セキュリティ概論('22)、日常生活のデジタルメディア('22)
関連科目	◇生命科学に関する科目	動物の科学('15)、生物環境の科学('16)、生物の進化と多様化の科学('17)、生命分子と細胞の科学('19)、植物の科学('21)、暮らしに役立つバイオサイエンス('21)
	◇理工学に関する科目	物理演習('16)、微分方程式('17)、化学反応論-分子の変化と機能('17)、線型代数学('17)、初歩からの化学('18)、初歩からの数学('18)、解析入門('18)、量子化学('19)、エネルギーと社会('19)、力と運動の物理('19)、入門線型代数('19)、場と時間空間の物理('20)、エントロピーからはじめる熱力学('20)、量子物理学('21)、正多面体と素数('21)、自然科学はじめの一歩('22)、入門微分積分('22)、初歩からの物理('22)、現代を生きるための化学('22)
	◇社会福祉・リハビリテーション論に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、人間にとって貧困とは何か('19)、特別支援教育総論('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、リハビリテーション('19)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、子育て支援-法と政策を学ぶ('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

8「保健衛生学」(放射線技術科学)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専 門 科 目 (A群)	○放射線理工学に関する科目	
	○放射線医学に関する科目	
	○画像医工学に関する科目	
	○放射線・画像技術学に関する科目	
	○放射線管理学に関する科目	
	○放射線技術科学に関する実験・実習科目	
(B群)	○理工学に関する科目 (放射線技術科学分野の基礎となる理工学)	量子化学('19)、量子物理学('21)
	○基礎・臨床医学に関する科目	基礎看護学('16)、在宅看護論('17)、看護管理と医療安全('18)、感染症と生体防御('18)、今日のメンタルヘルス('19)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、看護学概説('22)、人体の構造と機能('22)、神経・生理心理学('22)
	○社会医学に関する科目	健康と社会('17)、公衆衛生('19)
関 連 科 目	◇健康科学に関する科目	がんを知る('16)、食と健康('18)、健康への力の探究('19)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、睡眠と健康('21)、食の安全('21)、運動と健康('22)
	◇人間発達・心理学に関する科目	心理臨床と身体の病('16)、乳幼児・児童の心理臨床('17)、発達心理学概論('17)、精神分析とユング心理学('17)、心理学概論('18)、心理と教育へのいざない('18)、思春期・青年期の心理臨床('19)、知覚・認知心理学('19)、知的障害教育総論('20)、教育・学校心理学('20)、社会・集団・家族心理学('20)、心理学研究法('20)、臨床心理学概論('20)、認知行動療法('20)、中高年の心理臨床('20)、感情・人格心理学('21)、心理カウンセリング序説('21)
	◇統計学・情報科学に関する科目	Javaプログラミングの基礎('16)、コンピュータの動作と管理('17)、データベース('17)、身近な統計('18)、社会統計学入門('18)、データ構造とプログラミング('18)、コンピュータとソフトウェア('18)、情報ネットワーク('18)、社会調査の基礎('19)、統計学('19)、情報理論とデジタル表現('19)、自然言語処理('19)、Webのしくみと応用('19)、情報技術が拓く人間理解('20)、データの分析と知識発見('20)、ユーザ調査法('20)、生活環境と情報認知('20)、身近なネットワークサービス('20)、アルゴリズムとプログラミング('20)、教育調査の基礎('20)、コンピュータ通信概論('20)、AIシステムと人・社会との関係('20)、心理学統計法('21)、問題解決の数理('21)、情報学へのとびら('22)、情報セキュリティ概論('22)
	◇社会福祉・リハビリテーション論に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、特別支援教育総論('19)、リハビリテーション('19)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20) 子育て支援法と政策を学ぶ('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

9「保健衛生学」(理学療法学)、10「保健衛生学」(作業療法学)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群) (B群)	○基礎・研究理学療法学に関する科目	力と運動の物理('19)
	○心身機能診断学に関する科目	
	○臨床理学療法学に関する科目	
	○物理療法学に関する科目	
	○日常生活活動学に関する科目	
	○理学療法学に関する臨床実習科目	
	○作業療法概論に関する科目	
	○作業治療学に関する科目	
	○心身機能評価学に関する科目	
	○臨床作業療法学に関する科目	
	○日常生活活動・職能指導に関する科目	
	○作業療法学に関する臨床実習科目	
(C群)	○基礎・臨床医学に関する科目	看護管理と医療安全('18)、感染症と生体防御('18)、公衆衛生('19)、今日のメンタルヘルス('19)、リハビリテーション('19)、肢体不自由児の教育('20)、認知行動療法('20)、中高年の心理臨床('20)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、人体の構造と機能('22)、神経・生理心理学('22)
	○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、現代の家庭教育('18)、人間にとって貧困とは何か('19)、特別支援教育総論('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、子育て支援-法と政策を学ぶ('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)
	○健康科学に関する科目	食と健康('18)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、睡眠と健康('21)、食の安全('21)、運動と健康('22)
関連科目	◇人間発達・心理学に関する科目	発達科学の先人たち('16)、心理臨床と身体の病('16)、乳幼児・児童の心理臨床('17)、発達心理学概論('17)、精神分析とユング心理学('17)、交通心理学('17)、危機の心理学('17)、心理学概論('18)、心理と教育へのいざない('18)、思春期・青年期の心理臨床('19)、知覚・認知心理学('19)、知的障害教育総論('20)、教育・学校心理学('20)、社会・集団・家族心理学('20)、心理学研究法('20)、臨床心理学概論('20)、錯覚の科学('20)、感情・人格心理学('21)、心理カウンセリング序説('21)
	◇統計学・情報科学に関する科目	記号論理学('14)、Javaプログラミングの基礎('16)、メディアと知的財産('16)、コンピュータの動作と管理('17)、教育のためのICT活用('17)、データベース('17)、身近な統計('18)、社会統計学入門('18)、データ構造とプログラミング('18)、コンピュータとソフトウェア('18)、情報ネットワーク('18)、社会調査の基礎('19)、統計学('19)、情報理論とデジタル表現('19)、Webのしくみと応用('19)、情報技術が拓く人間理解('20)、データの分析と知識発見('20)、ユーザ調査法('20)、情報化社会におけるメディア教育('20)、生活環境と情報認知('20)、身近なネットワークサービス('20)、アルゴリズムとプログラミング('20)、教育調査の基礎('20)、コンピュータ通信概論('20)、AIシステムと人・社会との関係('20)、心理学統計法('21)、問題解決の数理('21)、遠隔学習のためのパソコン活用('21)、情報学へのとびら('22)、情報セキュリティ概論('22)、日常生活のデジタルメディア('22)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

11 「鍼灸学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○経絡経穴学に関する科目	
	○鍼灸の理論に関する科目	
	○東洋医学に関する概論的な科目	
	○鍼灸基礎実習に関する科目	
	○鍼灸臨床・実習に関する科目	
	○基礎・臨床医学に関する科目	感染症と生体防御('18)、リハビリテーション('19)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、看護学概説('22)、神経・生理心理学('22)
(B群)	○社会福祉に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、人間にとって貧困とは何か('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、知的障害教育総論('20)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、肢体不自由児の教育('20)、子育て支援-法と政策を学ぶ('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)
	○医用工学に関する科目	
	○健康科学・スポーツ科学に関する科目	健康と社会('17)、食と健康('18)、健康長寿のためのスポーツロジー('19)、今日のメンタルヘルス('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、睡眠と健康('21)、運動と健康('22)
	○心理学に関する科目	心理臨床と身体の病('16)、発達科学の先人たち('16)、交通心理学('17)、発達心理学概論('17)、精神分析とユング心理学('17)、乳幼児・児童の心理臨床('17)、危機の心理学('17)、心理と教育へのいざない('18)、心理学概論('18)、思春期・青年期の心理臨床('19)、知覚・認知心理学('19)、錯覚の科学('20)、社会・集団・家族心理学('20)、心理学研究法('20)、臨床心理学概論('20)、教育・学校心理学('20)、認知行動療法('20)、中高年の心理臨床('20)、感情・人格心理学('21)、心理カウンセリング序説('21)、障害者・障害児心理学('21)
関連科目	◇人類学・文化人類学に関する科目	フィールドワークと民族誌('17)、レジリエンスの諸相('18)、総合人類学としてのヒト学('18)、 「人新世」時代の文化人類学('20)、博物館で学ぶ文化人類学の基礎('20)
	◇医療社会学に関する科目	がんを知る('16)、がんとともに生きる('18)
	◇医史学に関する科目	
	◇倫理学に関する科目	新しい時代の技術者倫理('15)、情報・メディアと法('18)、死生学のフィールド('18)
	◇東洋思想に関する科目	日本仏教を捉え直す('18)
	◇情報科学に関する科目	Javaプログラミングの基礎('16)、身近な統計('18)、社会統計学入門('18)、情報ネットワーク('18)、 コンピュータとソフトウェア('18)、Webのしくみと応用('19)、社会調査の基礎('19)、統計学('19)、 情報技術が拓く人間理解('20)、データの分析と知識発見('20)、ユーザ調査法('20)、 情報化社会におけるメディア教育('20)、生活環境と情報認知('20)、身近なネットワークサービス('20)、 アルゴリズムとプログラミング('20)、コンピュータ通信概論('20)、AIシステムと人・社会との関係('20)、 問題解決の数理('21)、遠隔学習のためのパソコン活用('21)、心理学統計法('21)、情報学へのとびら('22)、 情報セキュリティ概論('22)、日常生活のデジタルメディア('22)
	◇統合医療・補完代替医療に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

12 「口腔保健学」(口腔保健衛生学)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○口腔保健衛生学概論に関する科目	
	○臨床歯科医学に関する科目	
	○基礎歯科医学に関する科目	
	○口腔疾患予防学に関する科目	
	○口腔保健指導に関する科目	
	○歯科診療補助に関する科目	
(B群)	○口腔保健衛生学に関する実習科目	
関連科目	◇医学・歯学に関する科目	がんを知る('16)、感染症と生体防御('18)、公衆衛生('19)、今日のメンタルヘルス('19)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、リハビリテーション('19)、認知行動療法('20)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、人体の構造と機能('22)、神経・生理心理学('22)、運動と健康('22)
	◇保健学に関する科目	健康と社会('17)、食と健康('18)、健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、睡眠と健康('21)、食の安全('21)
	◇看護学に関する科目	基礎看護学('16)、在宅看護論('17)、看護管理と医療安全('18)、成人看護学('18)、老年看護学('19)、精神看護学('19)、災害看護学・国際看護学('20)、母性看護学('20)、看護学概説('22)
	◇社会福祉学に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、特別支援教育総論('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、子育て支援-法と政策を学ぶ('20)、認知症と生きる('21)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)
	◇医療情報科学に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

13 「口腔保健学」(口腔保健技工学)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○口腔保健技工学概論に関する科目	
	○歯科技工学に関する科目	
	○臨床歯科医学に関する科目	
	○基礎歯科医学に関する科目	
	○歯科理工学に関する科目	
	○歯の解剖学に関する科目	
(B群)	○口腔保健技工学に関する実習科目	
関連科目	◇歯学・医学に関する科目	がんを知る('16)、感染症と生体防御('18)、公衆衛生('19)、今日のメンタルヘルス('19)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、リハビリテーション('19)、認知行動療法('20)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、人体の構造と機能('22)、神経・生理心理学('22)、運動と健康('22)
	◇工学に関する科目	
	◇保健学に関する科目	健康と社会('17)、食と健康('18)、健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、睡眠と健康('21)、食の安全('21)
	◇社会福祉学に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、特別支援教育総論('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、子育て支援-法と政策を学ぶ('20)、認知症と生きる('21)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)
	◇医療情報科学に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

14 「柔道整復学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○柔道整復学に関する基礎的な科目	
	○臨床柔道整復学に関する科目	
	○柔道整復学に関する臨床実習科目	
	○生体・生理学に関する科目	睡眠と健康('21)、疾病の成立と回復促進('21)、疾病の回復を促進する薬('21)、人体の構造と機能('22)、運動と健康('22)
(B群)	○保健医療に関する科目	心理臨床と身体の病('16)、乳幼児・児童の心理臨床('17)、精神分析とユング心理学('17)、感染症と生体防御('18)、リハビリテーション('19)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、臨床心理学概論('20)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)
	○健康科学に関する科目	がんを知る('16)、食と健康('18)、今日のメンタルヘルス('19)、健康への力の探究('19)、公衆衛生('19)
	○柔道に関する実技科目	
	◇体育学に関する科目	
関連科目	◇倫理学に関する科目	新しい時代の技術者倫理('15)、情報・メディアと法('18)、死生学のフィールド('18)
	◇人間発達・心理学に関する科目	発達科学の先人たち('16)、発達心理学概論('17)、危機の心理学('17)、心理学概論('18)、現代の家庭教育('18)、心理と教育へのいざない('18)、思春期・青年期の心理臨床('19)、知覚・認知心理学('19)、教育・学校心理学('20)、社会・集団・家族心理学('20)、錯覚の科学('20)、心理学研究法('20)、データの分析と知識発見('20)、ユーザ調査法('20)、感情・人格心理学('21)、心理カウンセリング序説('21)
	◇社会福祉に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、人間にとって貧困とは何か('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、知的障害教育総論('20)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、肢体不自由児の教育('20)、子育て支援—法と政策を学ぶ('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉—新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)
	◇統合医療・補完代替医療に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

15 「栄養学」

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目 (A群)	○栄養に関する総合的な科目	
	○人体の仕組みに関する科目	人体の構造と機能('22)
	○食物に関する科目	食と健康('18)
	○臨床栄養に関する科目	
	○公衆栄養に関する科目	
	○保健衛生に関する科目	公衆衛生('19)、食の安全('21)
	○栄養指導・栄養教育に関する科目	
(B群)	○栄養に関する演習・実験・実習科目	
関連科目	◇食生態学に関する科目	
	◇健康科学に関する科目	がんを知る('16)、健康と社会('17)、今日のメンタルヘルス('19)、健康長寿のためのスポーツロジック('19)、健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、睡眠と健康('21)、運動と健康('22)
	◇生命科学に関する科目	動物の科学('15)、生物環境の科学('16)、生物の進化と多様化の科学('17)、生命分子と細胞の科学('19)、植物の科学('21)、暮らしに役立つバイオサイエンス('21)
	◇環境科学に関する科目	環境の可視化('15)、エネルギーと社会('19)、環境と社会('21)、緑地環境の計画('21)
	◇社会福祉に関する科目	家族と高齢社会の法('17)、人間にとって貧困とは何か('19)、社会保障の国際動向と日本の課題('19)、高齢期の生活変動と社会的方策('19)、知的障害教育総論('20)、ライフステージと社会保障('20)、社会福祉と法('20)、肢体不自由児の教育('20)、子育て支援-法と政策を学ぶ('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)
	◇人間生活に関する科目	メディアと知的財産('16)、都市と地域の社会学('18)、現代の家庭教育('18)、生活経済学('20)、家族問題と家族支援('20)、認知症と生きる('21)
	◇食品流通に関する科目	フードシステムと日本農業('22)
◇情報科学に関する科目	Javaプログラミングの基礎('16)、身近な統計('18)、社会統計学入門('18)、情報ネットワーク('18)、コンピュータとソフトウェア('18)、社会調査の基礎('19)、統計学('19)、Webのしくみと応用('19)、情報技術が拓く人間理解('20)、データの分析と知識発見('20)、ユーザ調査法('20)、情報化社会におけるメディア教育('20)、生活環境と情報認知('20)、映像コンテンツの制作技術('20)、身近なネットワークサービス('20)、アルゴリズムとプログラミング('20)、コンピュータ通信概論('20)、AIシステムと人・社会との関係('20)、問題解決の数理('21)、遠隔学習のためのパソコン活用('21)、情報学へのとびら('22)、情報セキュリティ概論('22)、日常生活のデジタルメディア('22)	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

16 「芸術学」(美術)

「専門・関連科目」の区分		2022年度対応科目
専門科目	○美術制作に関する科目	
	○美術理論・美術史に関する科目	西洋芸術の歴史と理論(16)
	○美術教育・アートマネジメントに関する科目	博物館展示論(16)、博物館資料論(18)、博物館情報・メディア論(18)、博物館概論(19)、博物館資料保存論(19)、博物館経営論(19)、博物館教育論(22)
関連科目	◇文学に関する科目	日本文学の名作を読む(17)、日本文学における古典と近代(18)、『方丈記』と『徒然草』(18)、世界文学の古典を読む(20)、日本文学と和歌(21)、世界文学への招待(22)
	◇文化史に関する科目	都市から見るヨーロッパ史(21)
	◇哲学に関する科目	記号論理学(14)、現代フランス哲学に学ぶ(17)、死生学のフィールド(18)、現代の危機と哲学(18)、日本仏教を捉え直す(18)、哲学・思想を今考える(18)、西洋哲学の根源(22)、原初から／への思索(22)
	◇外国語に関する科目	フランス語Ⅰ(18)、フランス語Ⅱ(18)、中国語Ⅰ(18)、中国語Ⅱ(18)、ドイツ語Ⅰ(19)、ドイツ語Ⅱ(19)、教養で読む英語(19)、韓国語Ⅰ(20)、韓国語Ⅱ(20)、英語で読む大統領演説(20)、ビートルズ de 英文法(21)、英語で「道」を語る(21)、グローバル時代の英語(22)
	◇民族学に関する科目	フィールドワークと民族誌(17)、「人新世」時代の文化人類学(20)、博物館で学ぶ文化人類学の基礎(20)
	◇社会学に関する科目	環境の可視化(15)、人口減少社会の構想(17)、危機の心理学(17)、女性のキャリアデザインの開拓(17)、ソーシャルシティ(17)、都市と地域の社会学(18)、社会調査の基礎(19)、人間にとっての貧困とは何か(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、エネルギーと社会(19)、リスク社会の家族変動(20)、家族問題と家族支援(20)、新時代の組織経営と働き方(20)、生活環境情報の表現-GIS入門(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、社会学概論(21)、環境と社会(21)
	◇情報科学に関する科目	Javaプログラミングの基礎(16)、メディアと知的財産(16)、コンピュータの動作と管理(17)、教育のためのICT活用(17)、データベース(17)、身近な統計(18)、社会統計学入門(18)、データ構造とプログラミング(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、情報ネットワーク(18)、統計学(19)、計算の科学と手引き(19)、情報理論とデジタル表現(19)、Webのしくみと応用(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、データの分析と知識発見(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、生活環境と情報認知(20)、映像コンテンツの制作技術(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、コンピュータ通信概論(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、遠隔学習のためのパソコン活用(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)
	◇心理学に関する科目	心理臨床と身体の病(16)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、発達心理学概論(17)、精神分析とユング心理学(17)、交通心理学(17)、心理学概論(18)、思春期・青年期の心理臨床(19)、知覚・認知心理学(19)、今日のメンタルヘルス(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)
	◇言語学に関する科目	コミュニケーション学入門(19)、日本語学入門(20)、日本語リテラシー(21)
	◇演劇学に関する科目	舞台芸術の魅力(17)
	◇教育学に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法(15)、幼児理解の理論及び方法(15)、発達科学の先人たち(16)、カリキュラムと学習過程(16)、現代社会の児童生徒指導(17)、子ども・青年の文化と教育(17)、生涯学習を考える(17)、学校と社会を考える(17)、戦後日本教育史(18)、現代の家庭教育(18)、地域コミュニティと教育(18)、心理と教育へのいざない(18)、教育社会学概論(19)、教育の行政・政治・経営(19)、学校と法(20)、情報化社会におけるメディア教育(20)、大学マネジメント論(20)、現代教育入門(21)、乳幼児の保育・教育(21)、道徳教育論(21)、日本の教職論(22)、幼児教育の指導法(22)
	◇生態学に関する科目	動物の科学(15)、生物環境の科学(16)、植物の科学(21)
◇音楽に関する科目	音を追究する(16)、西洋音楽史(21)	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

Q & A

Q 1 学士の申請をしたいと考えています。放送大学をどのように利用できますか？

A 1 「積み上げ単位」の修得にご利用いただけます。「学修成果」や「試験」等、制度の詳細については、機構が発行している「新しい学士への途」をよくお読みになって、ご不明な点は機構にお問い合わせください。

Q 2 放送大学ではどのような科目を開設していますか？

A 2 幅広い学問分野にわたる約300科目の授業をBS放送・インターネットを利用して開設しています。科目の内容については、本学のウェブサイトでシラバスを公開しています。また、学生募集要項に同封している「授業科目案内」をご覧ください。

放送大学ウェブサイト <https://www.ouj.ac.jp>
「トップページ」→「授業科目案内」→「大学」

Q 3 「学士」の申請に利用するには、どの科目を履修すればいいのですか？

A 3 申請者自身が「新しい学士への途」で申請要件や単位修得状況等を確認のうえ、どのような科目の単位が必要となるかを判断して、履修してください。
その際、この冊子の対応科目一覧 (p.4～) をぜひ活用してください。

Q 4 対応科目の履修について、履修相談はできますか？

A 4 申請される方それぞれで要件が異なるため、放送大学では個人の履修相談は受け付けておりません。また、機構でも個別の履修相談には応じていません。

※機構では、体系的な履修がなされているかどうかを審査するため、どの科目をどの区分の対応科目とするのかを含めて審査を行っています。十分に吟味のうえ、履修する科目を選択してください。

Q 5 短大卒ですが、放送大学に編入学すれば「学士」が得られますか？

A 5 放送大学に編入学して、卒業されると「学士(教養)」の学位が得られます。「学士(教養)」以外の学士を目指す方は、機構の学位授与制度を利用することになります。なお、放送大学に全科履修生として在学している間は、機構に「学士」取得の申請をする資格がありませんので、ご注意ください。(本学卒業後、または退学後に申請することが可能です。)

Q 6 学生種がよくわかりません。どの学生種で入学すればいいですか？

A 6 放送大学には、学生種が3つあります。入学料と在学期間が異なりますので、目的に合わせて検討してください。

例えば……

①必要な単位はあとわずか。早く申請したい。

➡ **科目履修生** 半年間(1学期間)在学する学生です。

②申請の目的はついていて、まだ少し単位が必要。

➡ **選科履修生** 1年間(2学期間)在学する学生です。

③じっくりと学習したい。色々勉強して、将来申請をしたい。

➡ **全科履修生** 最長で10年間在学することのできる学生です。

本学在学中は機構に「学士」取得の申請をすることはできませんが、本学卒業後、または退学後に申請することが可能です。

Q7 費用について教えてください。

A7 入学料及び授業料については、下表をご覧ください。

学生種	入学料	授業料（半年間）
科目履修生	7,000円	放送授業1科目（2単位） 11,000円（教材費込み） オンライン授業科目（1単位または2単位） 5,500円または11,000円
選科履修生	9,000円	
全科履修生	24,000円	

Q8 放送大学の「対応科目一覧」にない区分の科目は、どうすればいいですか？

A8 他大学での履修をお願いします。

※全国の大学では、その大学で授与される学位の種類をウェブサイト等で公表しています。ご希望の学位が取得できる大学に、科目の履修についてお問い合わせください。

Q9 「対応科目一覧」に掲載していない学士を申請したいのですが、放送大学の科目は対応していないのですか？

A9 ご自身で判断していただくことになります。
なお、本冊子に掲載している「対応科目一覧」も、放送大学で参考として作成しているものです。

Q10 かなり前に放送大学で修得した単位がありますが、申請に利用出来ますか？

A10 「基礎資格を有する者」に該当した後に修得した単位であれば、いつ修得した単位でも申請に利用できます。「基礎資格を有する者」に該当する前に修得した単位については、機構にお問い合わせください。どの科目区分に該当するかは、必ず申請年度の「新しい学士への途」を参照して判断してください。

Q11 放送大学で修得した単位が、機構が発行している「新しい学士への途」では、「専攻に係る授業科目の区分」のどれにあたるのか分かりません。

A11 「新しい学士への途」の専攻の区分に載っている「専門科目の例」を参考に、ご自身で判断をお願いします。

※履修した内容については、機構が申請を受理した後、専門委員会で審査が行われます。そのため、機構でも個別の履修相談には応じていません。

Q12 「対応科目一覧」に記載されていない科目は、「専攻に係る単位以外の単位」ですか？

A12 そうとは限りません。最終的な判断は機構の専門委員会において行われるため、「対応科目一覧」に記載されていない科目も、専攻に係る単位として認定される場合もあります。

Q13 放送大学の面接授業で修得した単位がありますが、「積み上げ単位」になりますか？

A13 面接授業で修得した単位（1科目1単位）も「積み上げ単位」として認定される場合がありますが、最終的な判断は機構の専門委員会において行われます。

※面接授業は人数や開講時間・場所などに制約があります。面接授業の受講についての詳細は、本学ウェブサイト、または、入学後に配付する「学生生活の葉」をご覧ください。

Q14

機構への申請に必要な単位修得証明書はどこで発行してもらえますか？

A14

成績・単位修得証明書は学習センターで発行します。所属に関係なく、全国どこの学習センターでも発行できます。なお、単位修得状況一覧（単位認定書）は、機構への申請に使用できませんので、ご注意ください。

※証明書の申請についての詳細は、本学ウェブサイト、または、入学後に配付する「学生生活の葉」をご覧ください。なお、証明書を発行するシステムの関係上、発行までに若干時間がかかる場合があります。発行の申し込みは余裕をもって行ってください。

Q15

必要な積み上げ単位は全て放送大学だけで修得できるのですか？

A15

放送大学では約300科目を開発していますが、全ての科目を網羅している訳ではありません。目指される学士の種類や、申請される方によって必要となる積み上げ単位の内容が異なりますので、必ず申請年度の「新しい学士への途」で確認してください。

その上で、放送大学だけでは単位数が不足する場合には、他の大学で履修する必要があります。

Q16

「新しい学士への途」はどこで入手できますか？

A16

機構が作成している「新しい学士への途」等の冊子は下記の方法で入手できます。

① 以下のいずれかの方法で  テレメールにアクセスしてください。

インターネットの場合	https://telemail.jp/	
自動音声応答電話の場合	IP電話 050-8601-0101	※一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。

② ご希望の資料の資料請求番号を入力してください。

資料名	部数	資料請求番号	送料
『新しい学士への途』	1部※	983047	250円
『学位授与申請書類』	1部	983048	270円
『新しい学士への途』 および 『学位授与申請書類』	1セット	983049	310円
『学士をめざそう！』	1部	983050	180円
『機構が授与する学士の学位』	1部	983051	180円

※ 複数セットを請求する場合は、機構ウェブサイト（URL <https://www.niad.ac.jp/>）から  テレメールを利用して請求してください。

③ ガイダンスに従ってお届け先等の登録を行ってください。

請求方法についてのお問い合わせ
テレメールカスタマーセンター 電話 050-8601-0102 (9:30~18:00)



2022年度

放送大学を利用して大学改革支援・学位授与機構で学士の学位取得をめざす方へ

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11

電話番号 043-276-5111(総合受付)

平日：9時15分～17時30分／土曜：9時15分～13時、14時～17時30分

※日曜、祝日、年末年始(12/29～1/3)を除く

※音声ガイダンスに従って番号を選択してください。学生サポートセンターにつながります。

放送大学・大学院の学生は①を、入学前の方は②を選んでください。

E-mail : r-shikaku@ouj.ac.jp